

◆令和2年1月～12月事故の状況◆

【事故の特徴】

- ☆事故件数は「**90件**」発生しており、過去5年平均に比べ22件増加
- ☆特に、R2年は過去5年平均に比べ**労働災害が増加**している。
- ☆R2は**5、6、8月**に事故が増加。
- ☆R2は**死亡事故が1件発生**(過去5年平均1.2人)

★5月に死亡事故が1件発生

★工事着手直後の5、6月に事故が増加

★熱中症により、8月に事故が増加

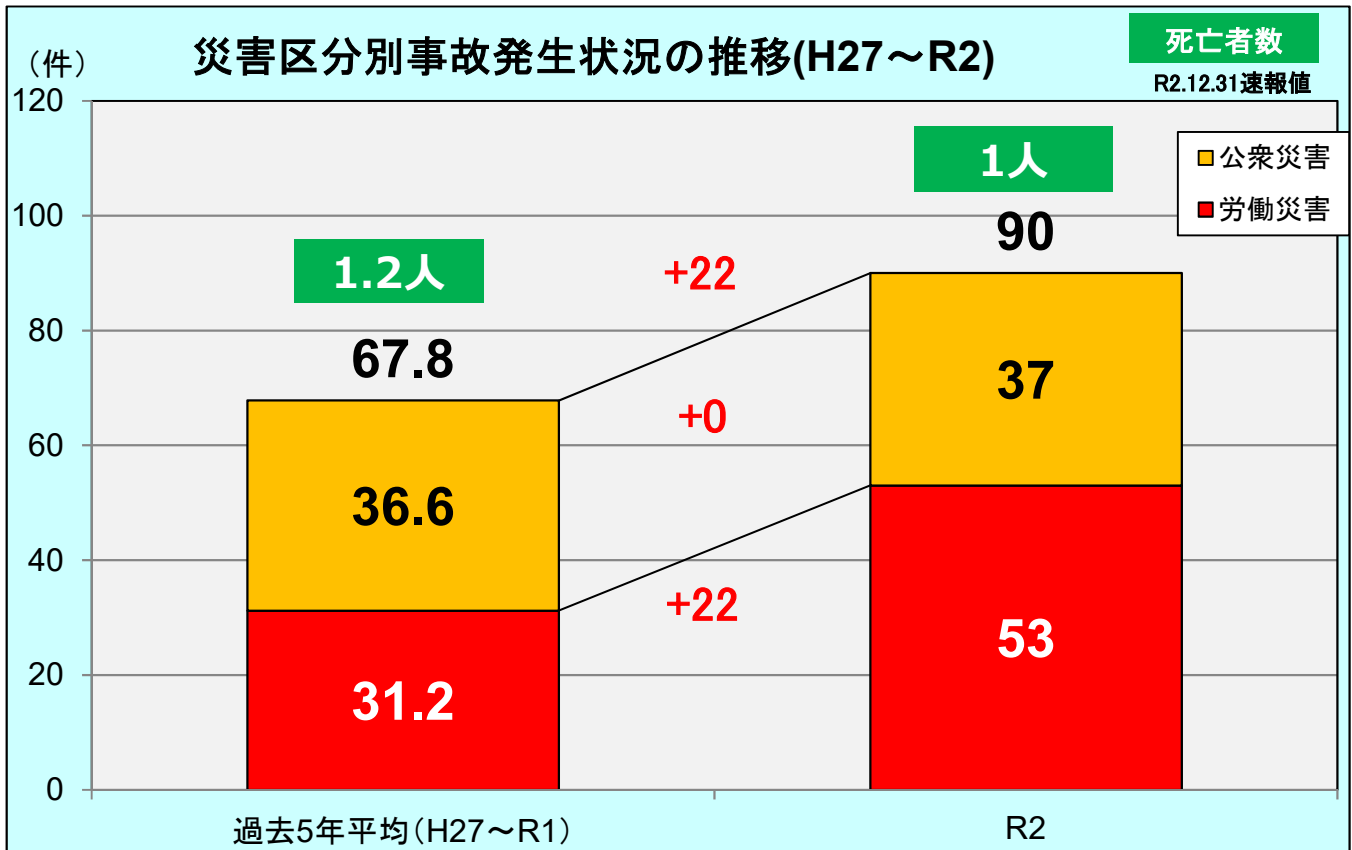
1. 事故の発生状況

※使用している数値は速報値であるため、今後変更となる可能性があります。
※北陸地方整備局発注の直轄工事を対象としています。

1) 過去5年平均との比較

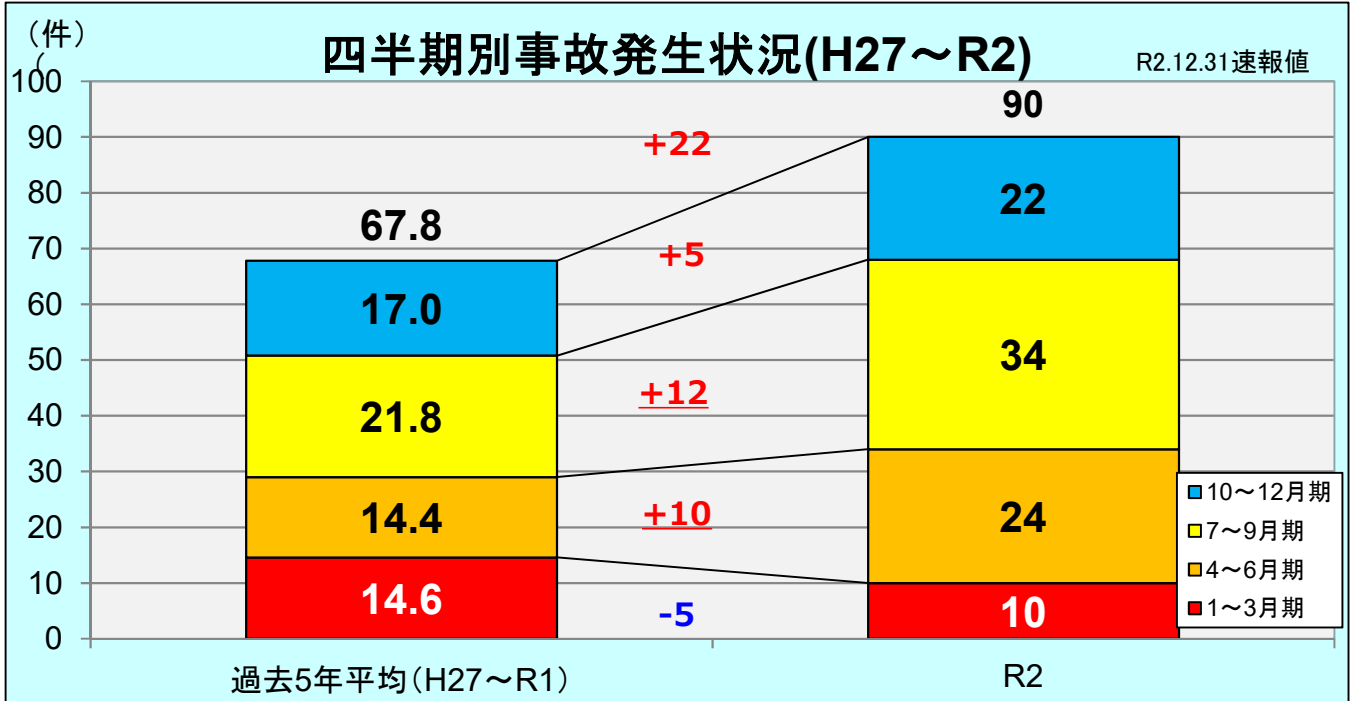
R2の事故件数は90件で過去5年平均と比べ22件多く、労働災害は53件、公衆災害は37件発生し、特に労働災害は過去5年平均と比べ大幅に増加している。

死亡事故が1件発生している。



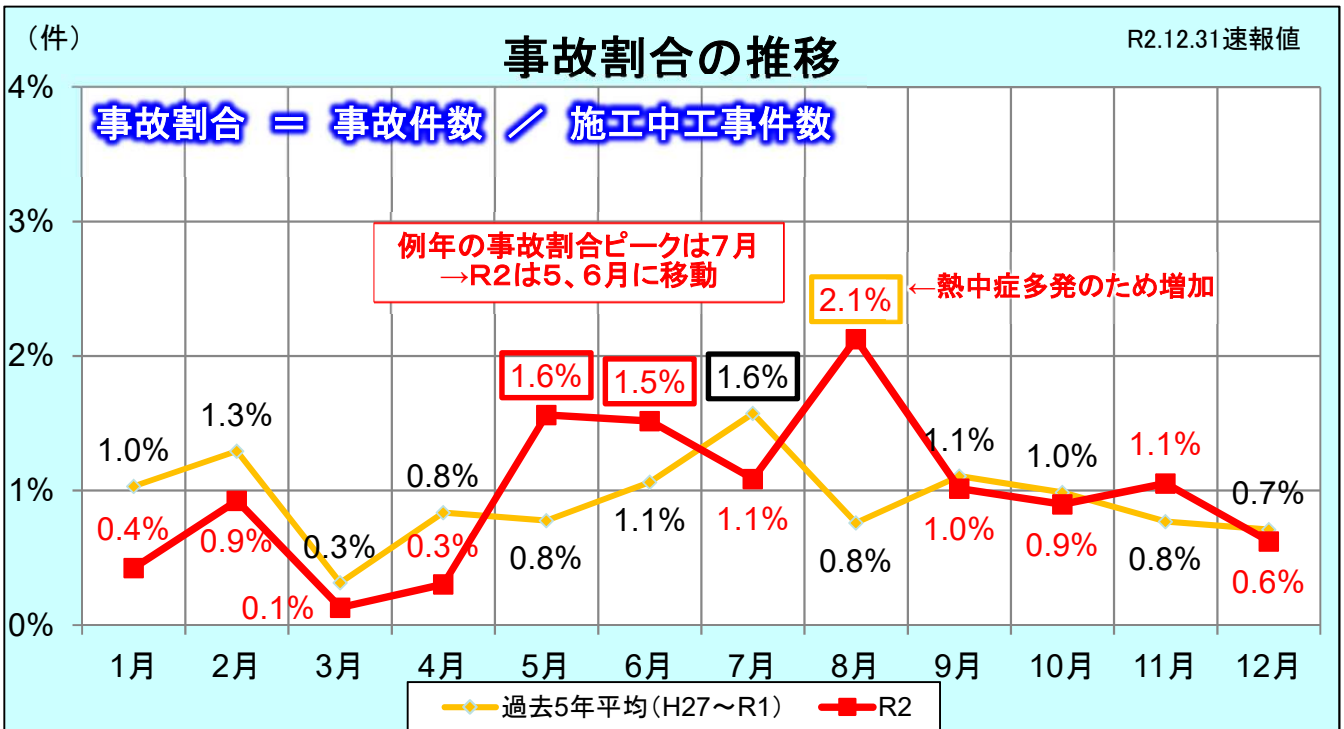
2) 四半期別の事故発生件数

R2の1～3月は10件、4～6月は24件、7～9月は34件、10～12月は22件発生しており、過去5年平均と比べると1～3月は減少しているものの、他の期間は増加しています。特に4～6月、7～9月は10件以上増加しています。



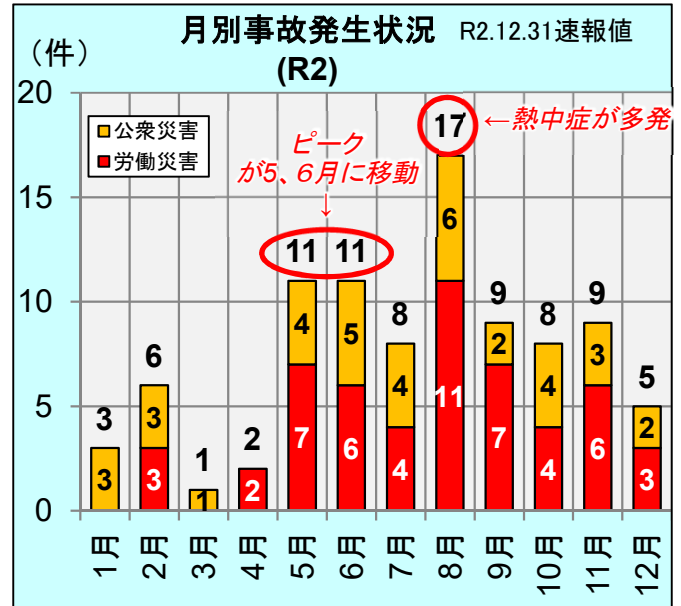
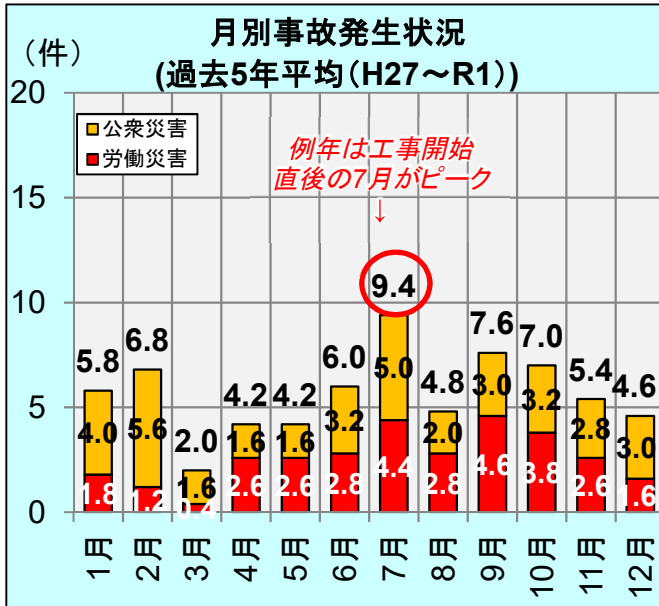
3) 事故割合

施工中の発生割合は、5月～11月で事故割合が概ね1%以上となっています。過去5年平均と比べると5、6月、8月で大幅増加しています。R2年は早期発注等により、工事の着手時期が5、6月に移動したものと推測されます。8月が増加していますが熱中症が多発したことが主な原因です。



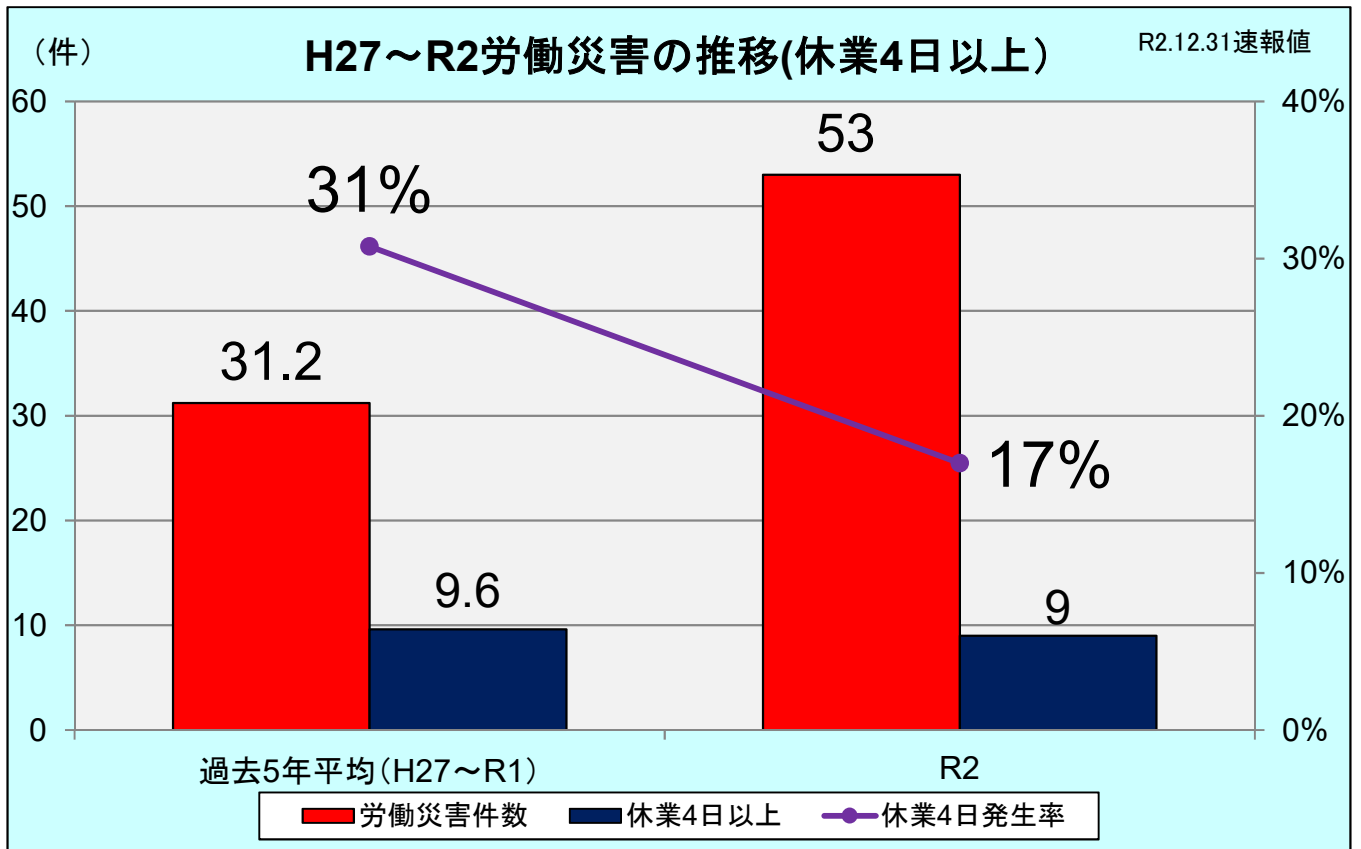
4) 月別の事故発生件数

例年の事故発生のピークは7月であるが、R2は5、6月にピークが移動しています。工事事故の発生は工事開始直後が高く、R2年はピークが早期発注等により、7月から5、6月に移動したものと推測されます。なお、R2は8月は熱中症が多発したため、例年に比べ大きく増加しています。



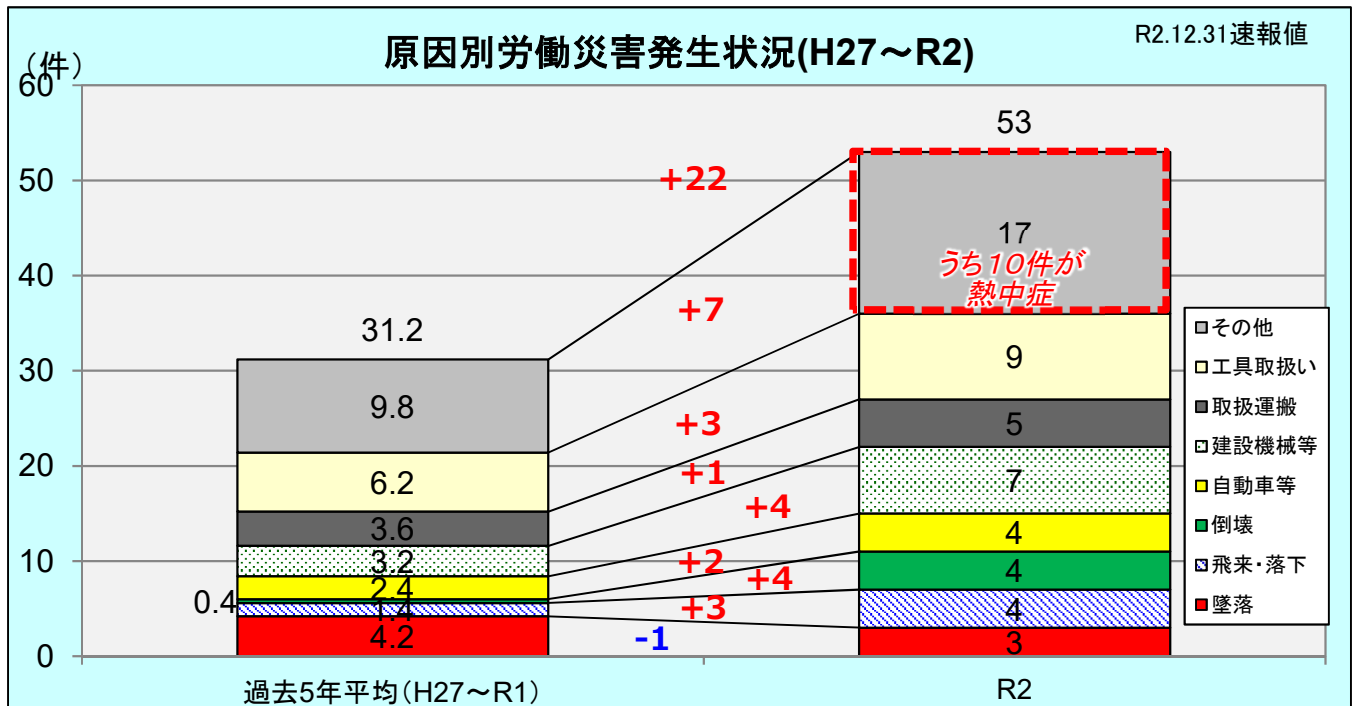
5) 休業4日以上 の事故発生状況

R2の休業4日以上（死亡を除く）の事故は9件発生しており、事故発生率は17%となっています。過去5年平均と比べると重大事故件数は変わっていないが、労働災害件数が増加しています。



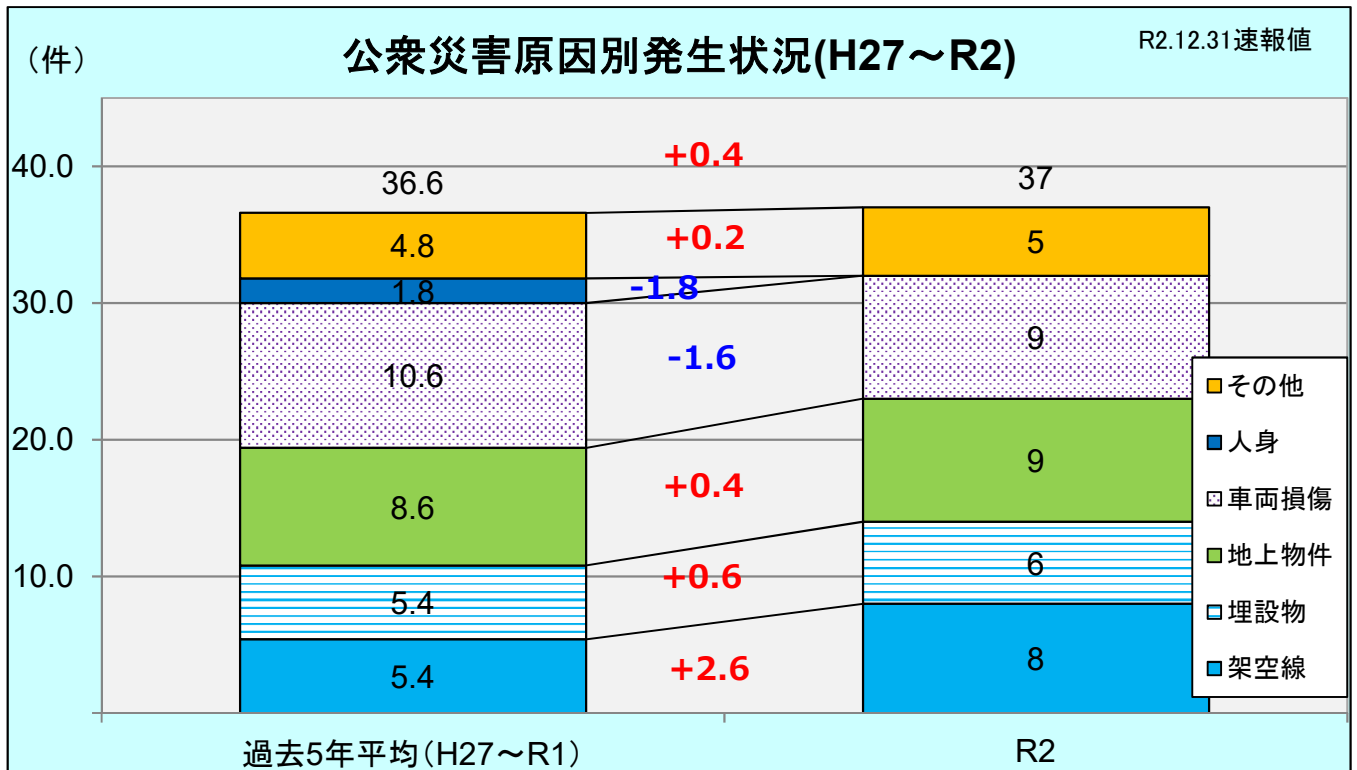
6) 労働災害の原因別事故発生件数

R2の労働災害の原因別事故発生件数は、墜落事故以外は全て増加しています。特に建設機械等、その他事故が増加しており、その他の事故17件のうち10件は熱中症で8月に増加しています。



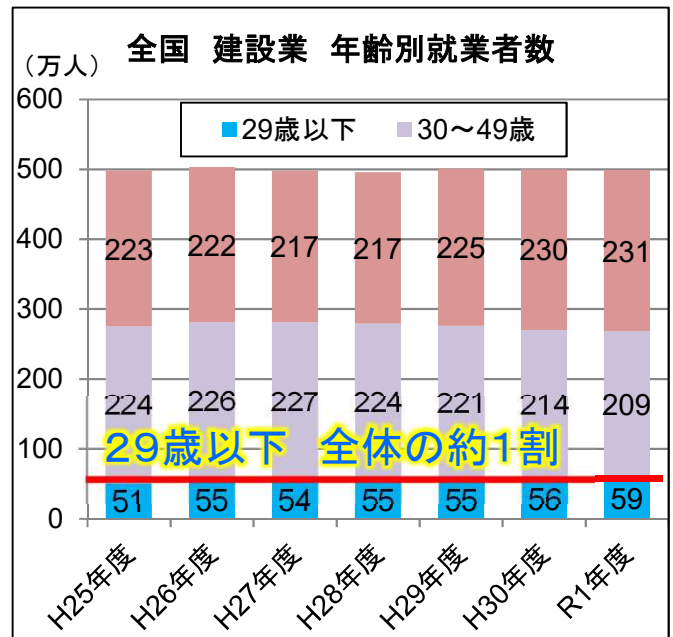
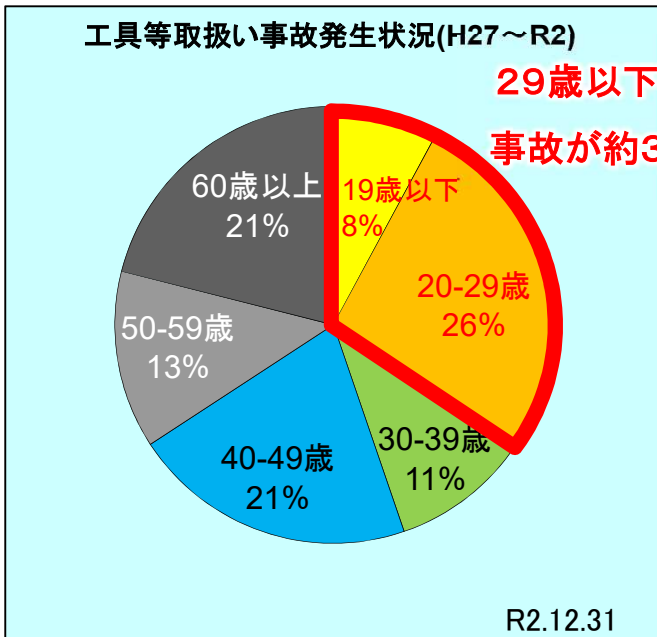
7) 公衆災害の原因別発生状況

R2の公衆災害は過去5年平均と比べ、大きな変化はありません。(36.6→37件)。原因別発生状況は過去5年平均と比べると、架空線が5.4件から8件に増加しています。



8) 工具取り扱い事故発生状況

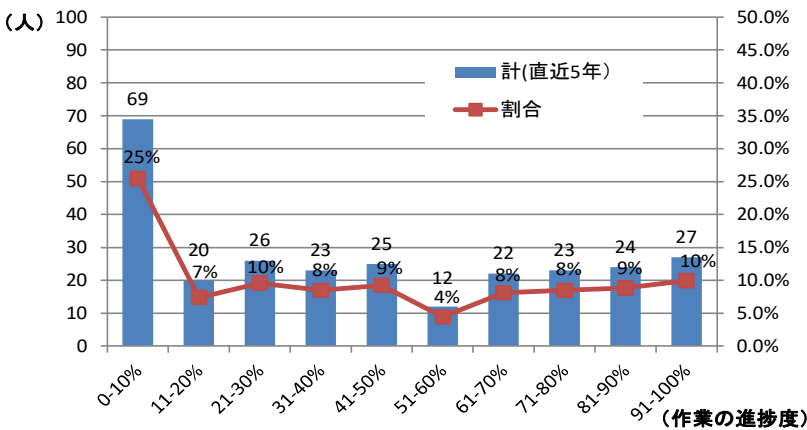
工具等取扱い事故のH27～R2の状況では29歳以下の事故が約3割を占めています。建設業全体に占める29歳以下の就業者は約1割程度ですが、人力除草による鎌等工具等の取扱いにより被災する事故が多い。（工具等：草刈り鎌、釘打機、ディスクグラインダー等）



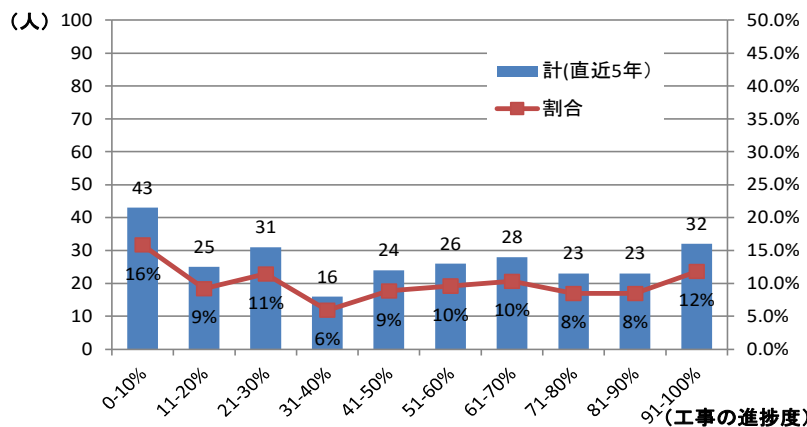
総務省 労働力調査より

9) 全国データより（平成26～30年度SASデータより）

① 工事・作業進捗度別事故発生の傾向



作業進捗度別の事故について(平成26～30年度)



工事進捗度別の事故について(平成26～30年度)

【作業進捗度別事故件数】

○ 作業初期段階（～10%）における事故件数が全体の25%を占めており、飛びぬけて多い

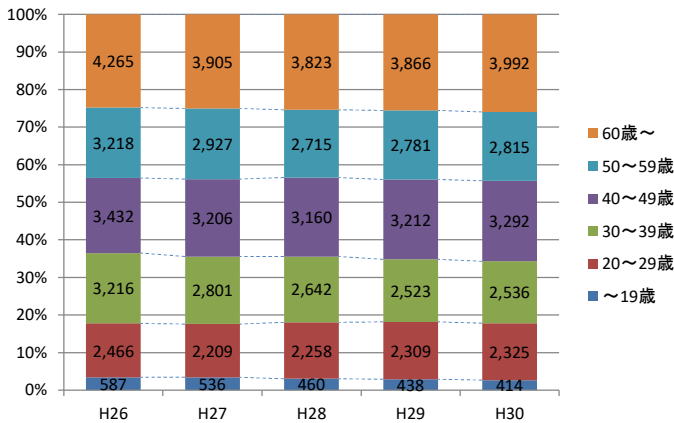
【工事の進捗度別事故件数】

○ 工期の着手時（～10%）及び工期末（91～100%）における事故件数が全体件数の約30%を占めている

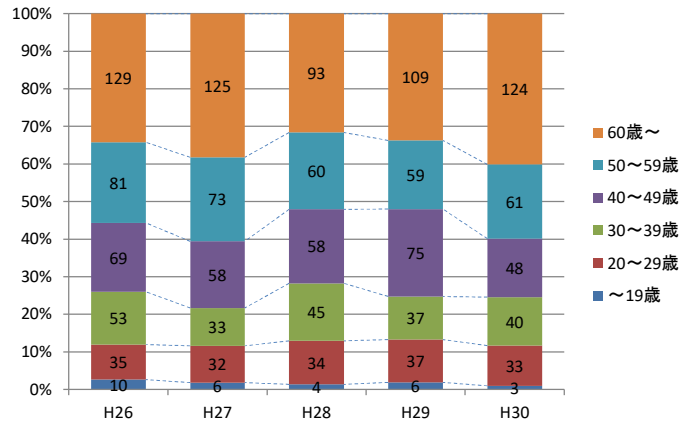
○ 作業の初期段階、工事着手時が事故発生のリスクが高く、特に注意が必要です。

②年齢別の死傷者数(平成26～30年)

建設業における年齢階層別死傷者数の推移



建設業における年齢階層別死亡者数の推移



[出典:厚生労働省 労働災害統計「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況(平成26～30年 確定値)]

- **死傷者数**の最も多いのは**60歳以上**であり、H28から増加傾向にある
- 10代の**死傷者**の割合は、就業者数の減少の影響もあるが、近年減少傾向を示している
- **死亡者数**は年度により異なるが、最も割合が多いのは60歳以上であり、次いで50歳代、40歳代、30歳代の順である

○一般には年齢が高いと経験が豊富だが体力や俊敏性の衰えが懸念されるため、現場の安全管理体制を充実させ事故を防止する必要があります。

2. 北陸地方3ヶ月予報(2月から4月まで)

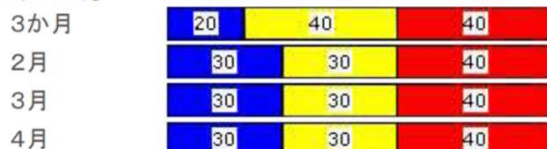
令和3年1月25日 新潟地方气象台 発表

- 向こう3か月の気温は、寒気の影響を受けにくいと、平年並か高いでしょう。
- 月の降雪量は、2月と3月はともに平年並か少ない見込みです。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

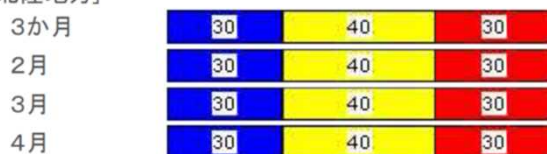
【気温】

[北陸地方]



【降水量】

[北陸地方]



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

令和3年1月25日

新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率

は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

2月 平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

【問合せ先】北陸地方整備局企画部 技術検査官 山崎 TEL 025-370-6702 FAX 025-280-8861